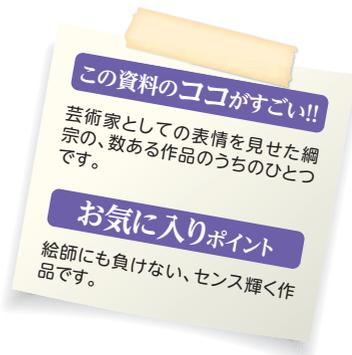


■基本情報 ■作者：伊達綱宗 ■年代：寛永17年(1640)～正徳元年(1711)

■寸法：縦87cm 横30.9cm (本紙部分)



学芸研究員  
砂金 春奈

### 学芸研究員の

伊達騒動により、あまり良くないイメージがついてしまった綱宗ですが、芸術に関して秀でた才能を発揮しました。



## 家紋に由来する縁起の良い絵

### 芸術の才能に恵まれた藩主

本資料は、伊達綱宗の誕生寛永17年(1640)～死没正徳元年(1711)までに描かれた作品である。

21歳の若さで隠居を強いられた綱宗は72歳で没するまでの50年間で品川の大井屋敷で過ごす間、様々な芸術に傾倒していき、特に絵については専門絵師にも引けを取らないとの評価を得る出来になっており、現在では仙台市博物館に所蔵されている「絹本著色霊昭女(けんぼんちゃくしよくれいしょうじょ)・牡丹(ぼたん)・芙蓉図(ふようず)」や「花鳥図屏風」が著名な作品として挙げられる。

本書画に描かれているのは竹と雀だが伊達家の家紋の一つ「竹に雀」<sup>\*1</sup>があることから、おそらく家紋をモチーフに描いたのではないかと推察できる。

### 綱宗の生涯

綱宗は幼名を巳之助と言ひ、仙台藩2代藩主伊達忠宗の6男として誕生した。忠宗の側室の貝姫が母親であったが、貝姫は寛永19年(1642)に病没し、その後正室である振姫の養子に迎えられる。

正保2年(1645)に振姫の息子である光宗が19歳で急逝すると、忠宗は7歳の巳之

助を自身の後継者として将軍に披露し認知を得た。

承応3年(1654)巳之助は15歳の時に元服し、将軍徳川家綱から一字を拝領し綱宗と名乗り、従四位下侍従兼美作守に任ぜられた。仙台藩での嗣子の元服は江戸城の将軍の御前で行い、その場で一字拝領、任官が慣例であったのに対し、元服の儀式を江戸下屋敷で行い、後に登城して将軍に御目見得の上、一字拝領とした綱宗は異例であった。万治元年(1658)7月に忠宗が没すると、訃報を受けた幕府は2か月後の9月に綱宗による家督相続を許可し、ここに仙台藩3代藩主綱宗が誕生する事となる。

万治3年(1660)幕府による家督相続の許可を受けた僅か2年後に綱宗は幕府から逼塞(ひっそく。江戸時代、武士に加えた刑罰の一つ。門を閉じて白昼の出入りを禁じた。)を命じられる。伊達家の正史である『治家記録』には「故あり逼塞」としか記されていないが、江戸幕府の正史である『徳川実紀』には逼塞の理由として酒と女に溺れ、家臣の忠告にも耳を傾けなかったためだとしている。

学芸研究員 砂金 春奈  
実習生 五十嵐 駿

用語解説 詳しくはP26へ

\*1 竹に雀